

Solan Primary School
4th grade news letter

Venture Fourth

2023. Aug. 31

時間の選択・人生の選択

「先生、俺最近やたらとツイてるんだよね。」

「きっと、毎日いいことしてるからじゃない？」

こんな会話が、自然と教室で交わされるようになりました。

「あ〜今日で8月も終わりかあ」

「すごい早いなあ」

と、過ぎ行く時間の早さを想う会話が飛び出れば、

「今日の漢字テストは絶対合格したい」

「100点取れる気しかしないから大丈夫」

と、熱の入ったトークを展開する子たちもたくさんいます。



この写真を見て、どんなことに気づくでしょうか。

これは、今朝の「マイタイム」の様子です。

マイタイムとは、その名の通り「自分で使い方を決める時間」です。

それを、「自分のしたいことをする時間」と捉えている子たちは校内に少なくありません。

4月の初めは、ほとんどの子がこの時間でiPadで遊んでいました。

本当に、「毎日欠かさず」です。

とても楽しそうな姿ではありますが、私はその姿について色々と思うところがありました。

マイタイムとは、厳密に言うと「自分のしたいことをする時間」ではありません。

先に書いた通り、「自分で時間の使い方を決める」時間です。

時間とは、以前にも日野原先生のお話しを紹介した際に書いた通り「命」であるともいえます。

その命そのものともいえる時間の使い方を、自分で決める時間だということです。

もちろん、自分の欲求を叶えることは時に必要です。

「遊び」の中に「学び」が隠れていることも決して少なくありません。

けれども、月曜日から金曜日まで、毎朝iPadで遊び続ける姿は「自分で決めている」というよりはiPadという魅力的な端末によって時間の使い方を「決められている」ように私の目には映りました。

引っ張られている、吸い寄せられている、ともいえるかもしれません。

とはいえ、そのことをいきなりストレートに伝えても子どもたちの心には響きません。

関係を作りながら、信頼という名の貯金を貯めつつ、対話を重ねて少しずつこの時間の使い方・選び方についてアプローチを重ねていきました。

最初に取り組んだのは、「ノーiPadデー」の創出です。

これも、私からトップダウンで制定したのではなく、子どもたちとの対話を重ねる中で、「確かに週1回くらいは、アイパッド以外の時間の使い方もしてみようか」ということになり、その開始に踏み切ったのでした。

もちろん、「これをしなさい」とパワープレイで教室の中にそれを作ることはできたでしょうし、とても手っ取り早くて簡単なことでしたが、やはりそれはしたくありませんでした。

理由はとても簡単です。

私自身が、自分の立場や肩書きを笠に着て強圧的に手っ取り早く物事を進める人が大嫌いだからです。

もちろん、時にそうした措置が必要な場合もあることは重々承知ですが、それを多用したり濫用したりする人のことを私はとても尊敬できません。

教室において、この「尊敬」や「信頼」は極めて大切です。

それを失った人から教わったことや伝えられたことは、情報としては耳や脳に入っても、心の中までは響いてこないからです。

ノーiPad デーが子どもたちとの対話の中で開始され、次第に朝の時間の使い方が変わってきました。

ある子は、ベーゴマやけん玉などの伝承遊びをするようになりました。

ある子は、お友だちや先生方とよく話すようになりました。

ある子は、大好きな読書に没頭するようになりました。

そして、そのうちに、「自分のしたいこと」だけではなく「自分にとって必要なこと」を考えて実行し始める子たちが出てきました。

百人一首大会に向けて自主練習を開始したり、1年生を迎える会での発表のリハーサルを行っていたり、作りかけの新聞やパンフレットの作成に取り組んだり。

そして、先ほどの写真の瞬間が訪れました。

パッと見ただけでは分からないかもしれませんが、教室のほとんどの子たちが今朝のマイタイムで行っていたのは「漢字の練習」でした。

今日の1時間目に行われる漢字テストに向けて、それぞれがそれぞれの方法で練習や努力を積んでいたのです。

もちろん、私から「練習しようね」などとは一切声をかけていません。

早く学校についた子たちが「今日はテストだ」「絶対目標を達成したい」と自然と練習をはじめ、後から到着した子たちもその姿を見て練習を開始したのです。

それが、本当にごくごく自然と起きました。

iPadで遊んでいる子もいましたが、クラスのほとんどは自分で「漢字の練習」が必要なことだと判断し、そうやって時間の使い方を決定したのです。

これこそが、マイタイムだと思いました。

iPadという魅力的な端末の誘いに簡単に身をゆだねるのではなく、その子たちは、今の自分に必要なことを自分で判断し、人生の選択をしたのです。

その後、漢字テストの場面で自分の目標を達成して多くの子が飛び跳ね、喜びの声を上げていました。

もちろん、頑張ったのにもかかわらず目標を達成できずに悔しそうな表情を浮かべている子もいましたが、これもまた大切な学びです。

むしろ、そうやって「悔しい」と思えたのは、その子が真剣にテストに向かい、努力を積んできた証とも言えるでしょう。

今朝は、そんな光景が教室で見られました。

そうそう、ある子は朝学校に来てからこんなことをつぶやいているのも聞かえてきました。

「あ～今日で 8 月も終わりかぁ。渡辺先生と過ごせるのもあと少しだなあ」まさか、私と同じような心境で 8 月の終わりを迎えている子がいたのだと、内心とても驚いた眩きでした。

2023 年も、あと 4 か月。

光の矢のごとくあっという間に過ぎていく時間を、一日一日また大切に味わい、楽しんでいきたいと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qgf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

